

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
発行人 富田 孝
〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
E-mail : tonekyou@pref.gunma.lg.jp

ニューノーマル下の生活の中で見えてきたもの

利根教育事務所長 富田 孝

1学期後半から夏季休業中にかけて新型コロナウイルス感染症の拡大が第7波の到来と言われ、子どもたちも不安の中での生活を余儀なくされました。9月に入った頃から、感染者数に減少傾向が見え始め、9月末には、感染者全数把握の見直しが始められたところです。今回のコロナ対策で大きな特徴であったのは、「経済活動を回すために、行動制限を緩和すること」でした。実際に、様々な場面で人流が増えていることを感じた方も多かったのではないかと思います。

先日、最近の新型コロナウイルス感染症の対策について、保健福祉関係の方から、こんなお話を聞きました。『経済活動を回すための行動制限の緩和が、これまでのような感染対策を取る必要がなくなっているとの解釈になっていないか、心配になることがあります。例えば、「三密」という言葉をあまり聞かなくなりました。様々なイベントで換気をおろそかにしている様子が見られることもあります。「ニューノーマル下での生活様式を大切にしながら、経済活動を回していくこと」、改めて一人一人が感染対策に対する意識を高めて生活を送ってほしいです。』

行動制限の緩和が「気持ちの緩み」を生んでしまっているとするれば、これまでどのようにコロナウイルスに相對してきたのか、改めて考えなければならぬと思います。長く続いたコロナ禍の生活から落ち着いた生活を取り戻したい、誰もが望むことですが、子どもたちの生活を安全・安心なものにするために、現状を的確に捉えて危機意識をもって指導を進めていくことの大切さを感じたところです。

1学期、学校訪問をした際に、子どもたちがどのように学んでいるのか興味をもって参観させていただきました。子どもたちは私と目が合うと何か言いたそうではあっても、言葉を交わすことを少しためらう様子が見られました。コロナ禍で子ども自身が注意して生活を送ろうと努めていると感じました。過度に恐れさせる必要はありませんが、子どもたちが注意を払って守っていこうと努めていることは、私たちも大切にしなければならないものであると考えます。ニューノーマル下での生活が続いていますが、安全に配慮しながらも、目を輝かせてたくましく学び続ける子どもたちであってほしいと願います。

学校教育係

「主体的・対話的で深い学び」における ICT の活用

各校で ICT 端末が整備され、今年度は、「いつ、どこで、どのように活用するのか」を視点に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が進んでいます。そこで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら、ICT の特性や強みを最大限に生かす授業づくりについて考えていきます。



研修主任

本校は、考える力を育成するために、ICT を効果的に活用していこうと研修に取り組んでいますが、使うことに精一杯で、本当に考える力が育成できているか自信がありません。ICT を効果的に活用するポイントはありますか。

それでは、ポイントを3つ示しますが、授業改善の大前提は「主体的・対話的で深い学び」の実現です。問題解決的な学習過程を重視することはこれまで通りで、『はばたく群馬の指導プランⅡ』等を活用してください。そして、ICT を活用するのであれば、「同 ICT 活用 Version.」を併せて見てください。特に、「個別最適な学びに関わる学習」と「協働的な学びに関わる学習」に書かれている内容をよく確認してほしいと思います。




指導主事

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら、ICT の特性や強みを最大限に生かして、考える力を育成する3つのポイントについて、実際の授業を例に考えてみましょう。

【5年 算数 単元「面積の求め方を考えよう」 本時「三角形の面積の求め方を考えよう」】

ねらい：ICT 端末で図形を操作したり、補助線を引いたりする活動を通して、既習の図形の面積の求め方を基にして、三角形の面積の求め方を考えることができるようにする。




これまでに学習したことで使えることとはありますか？ ICT 端末で図形を操作したり、補助線を引いたりして考えましょう。

長方形や平行四辺形の面積は求められるけど。 図や言葉や式で説明してみましょう。

長方形にして考えると… たて×よこの半分だな。

自分の考えを端末上にまとめられましたね。友達のと比べて見てみましょう。

どのように考えましたか？何人かの考えをモニターに映します。自分の考えと同じかな、違うかな？



Aくん Bさん Cくん

ほぼはAくんと同じだけど、Bさんのように平行四辺形にして考えることもできるんだ。

友達の方法を自分の端末でも操作して、確かめてみましょう。

平行四辺形にすると、その半分の面積を求めればよいことがよく分かった。

どの考え方も素晴らしいですね。どの方法にも共通していることは何ですか？

どの方法でも答えは同じだよ。形を変えて考えているところは同じだね。

そうですね。つまり、どうすれば求められるということかな？

面積の求め方が分かっている形に変身させれば答えを出せるな。

今日は、どんなことが考えられましたか？どんなことが分かりましたか？

面積の求め方が分かっている長方形や平行四辺形に形を変えて考えれば「三角形の面積」が求められることが分かりました。

1 個別最適な学びと協働的な学びを関連付けましょう

指導主事

個別の学習

協働的な学習

個別の学習で、自分の考えをしっかりとませ、ICT 端末でグループや全体で共有します。集まった考えを協働的な学習で検討し、自分の考えを広げ深めます。その後、個別の学習に戻り、振り返りなどで学びを自覚させます。操作、修正、共有のしやすさなど、ICT 端末の強みを生かしましょう。

研修主任

振り返りをしっかり行うことは学びを自覚させることにつながるのですね。どのように振り返りをさせるかによって、学習内容の定着に違いができてきそうですね。

2 「考えるための技法」を意識しましょう

追究する過程では、「考えるための技法」などを用いて効果的に思考することができるようにします。特に協働的な学習では、個々の考えの発表にとどまらないよう、考える視点を示します。各教科の「見方・考え方」を働かせることにもつながります。思考ツールを使うことも効果的です。

この授業の中では、「比較する」ことでそれぞれの方法の違いに着目させ、図形の見方を働かせられるようにしているんですね。

「考えるための技法」は『総合的な学習の時間 学習指導要領解説』に載っています。(小 p.82 中 p.79)

3 子どもの考えをつなぐ適切な働きかけをしましょう

教師の働きかけにより、子どもの考えをつないだり新たな視点を示したりして、考えが深まるようにします。適切な働きかけで考えを整理し、まとめられるようにします。

授業の中では、「共通していること」を問うことで、既習の求め方に帰着して考えれば良いことに気付かせ、「一般化」しています。

子どもの思考に沿って問い返しなどの働きかけをすることが、考えを深めるために必要だと分かりました。

ICT をどの場面でのように使うか、そこに教師がどんな視点を示したり、問い返しをしたりするかが大切なのですね。



「はばプラⅡICT活用Version」QRコード

「はばプラⅡICT活用Version」には、各教科等の1単位時間の展開例が示されています。それぞれのポイントを参考にしてください。

〈イメージ図〉

